

群馬の埴輪は 質も量も全国屈指

古墳時代に鶺鴒があった埴輪が告げる太古の儀式

群馬県は「埴輪大国」と言われるほど、多くの埴輪が発見されている。国宝や国の重要文化財に指定された埴輪の約4割が群馬県内で出土したものだといえるのはその証だ。墳丘上や周りに並べられ古墳を飾った埴輪。その種類は円筒形から家や人物、動物を表したものとさまざまな。埴輪は何のために作られたのか。考古学が専門の明治大学准教授・若狭徹さんは次のように語る。「埴輪は地域の人々に見せるためのものでした。古墳に埋葬されている王の権威や古墳の主が生前やってきたことを共同体の人たちに認識させるための展示物だったの



保渡田八幡塚古墳には、儀式の様子を表した埴輪が復元されている。

挂甲武人埴輪
(東京国立博物館)

細部まで表現された完全武装の武人埴輪。単体の埴輪として唯一国宝に指定されている。太田市飯塚町出土。Image:TNM Image Archives



鶺鴒形埴輪
(かみつけの里博物館)

古墳時代に鶺鴒が行われていたことを証明する埴輪。保渡田八幡塚古墳(高崎市)出土。

馬形埴輪

(吉井郷土資料館)
馬の埴輪が多いのも群馬県の埴輪の特徴。馬具も表現されている。中原1号古墳(高崎市)出土。

●MAP C-1



ひと目でわかる埴輪年表

	3世紀	4世紀	5世紀	6世紀	7世紀
特殊器台					
家			円筒埴輪		
盾・蓋		大刀・弓帽子			
甲冑			馬持ち人		
船					
鶺鴒					
水鳥					
さまざまな人物					
さまざまな動物					馬

一方、埴輪の群像からは、当時の思想や儀式の様子などが取れます。例えば人物と猪の埴輪を組み合わせる

初めに作られた円筒形の埴輪は、古墳に並べることで聖域を守ったり、古墳を立派に見せたりする役割があった。その後現れた人物埴輪や動物埴輪などは組み合わせて群像として並べられるようになる。「当時の人の服装や髪型、仕草、建物のつくりなどは個々の埴輪から知ることができませう。

と狩猟の場面を表現する。この場面は王の古墳にしかないことから王の特権的な祭事だったと考えられます。

古墳時代には文献史料がほとんど存在しないため、当時の風俗の詳細を知るには、埴輪が有力な証左となる。その最たる例が保渡田八幡塚古墳から出土した鶺鴒形埴輪だ。首を高く上げ口に魚をくわえ、頸部に鈴のついた紐が付けられた鶺鴒の姿が表現されている。鶺鴒は古代中国の歴史書や『日本書紀』に見られるが、古墳時代から儀礼行事としての鶺鴒が行われていたことが、この埴輪の発見により証明された。



猪形埴輪

(かみつけの里博物館)
腰に矢尻が刺さり出血した「手負いの猪」を表現した埴輪。保渡田VIII遺跡(高崎市)出土。



狩人埴輪

(かみつけの里博物館)
手には弓を持っていたと思われる。腰には鎧を目的にした小さな猪がつるされている。保渡田VII遺跡(高崎市)出土。

犬形埴輪

(かみつけの里博物館)
猪・狩人埴輪との関連から、獲物を追う獵犬を造形したと考えられる。保渡田VII遺跡(高崎市)出土。

語り部



明治大学 准教授
若狭 徹さん

専門は古墳時代の社会システムの解明。遺跡の保存・活用、文化財を生かした地域づくりの方法についても研究し、実践する。保渡田古墳群の発掘調査、整備に関わった。

謎解きキーワード

- ① 群像に意味がある
- ② 単体で唯一の国宝埴輪
- ③ 大量生産かつ高品質

高崎市のかみつけの里博物館には、多数の埴輪が展示されている。

TOPICS



群馬HANI-1グランプリ
 人気投票で群馬県内出土の埴輪のNo.1を決めるグランプリ。のべ5万以上の投票があり、「笑う埴輪」(藤岡市)が1位に選ばれた。
 ☎027-226-2525(県文化振興課)



正座し祭具を捧げる巫女
 (群馬県立歴史博物館保管)
 盛装した女が、体の前面で何かを捧げ持つ姿。観音山古墳(高崎市)出土。国宝。国(文化庁)所有。

弾琴男子像
 (相川考古館)
 イスに座って膝の上で琴を弾く男性の埴輪。琴の弦は5本。前橋市朝倉町出土。国重要文化財。
 ●MAP B-2



笑う埴輪
 (藤岡歴史館)
 目を細めて笑う農夫の人物埴輪。笑っている理由については諸説ある。下毛田遺跡(藤岡市)出土。

埴輪工人の技術が魅せる埴輪の世界の奥深さ
 群馬県内で見つかる埴輪は全国的に見ても完成度が高い。質の高い埴輪を数多く作ることができたのはなぜか。「埴輪の製作期間が長いこと、大量生産していたことがその要因でしょう。人物埴輪に限ると、ヤマトでは5世紀前半から作りはじめる6世紀に衰退し、6世紀中頃以降はほとんど作っていません。一方、群馬では5世紀後半から6世紀後半まで作っていました。また、王だけでなくその家来や農村の有力者の墓にも埴輪をたくさん並べたため、大量の埴輪が必要とされました。そこで、埴輪作りを専門とする窯業地ができたのです。現在の藤岡市、太田市域に埴輪作りの拠点があり、そこから各地



盾持ち人埴輪は古墳の外周に並べられ、墓を守る役割を持つ。

ここで埴輪に会おう

〈高崎市〉かみつけの里博物館



保渡田八幡塚古墳が造られた1,500年前の社会復元模型や埴輪、日本最古の飾履(くつ)などを展示。企画展も随時開催。円筒埴輪作りなども実施している(要予約)。
 ●MAP B-1

〈太田市〉塚廻り古墳群第4号古墳



太田市東部で発見された11基の古墳のうちの一つで、長さ22.5mの帆立貝形古墳。優れた造形の埴輪は国の重要文化財に指定。公園として復元整備され、公開されている。
 ●MAP C-3

〈前橋市〉大室古墳群



前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳の大型前方後円墳3基を含む古墳群。前二子・後二子は石室見学も可。埴輪などの出土品は大室にはわ館で見学できる。
 ●MAP B-2

〈藤岡市〉藤岡歴史館



埴輪、石器など藤岡市内出土の文化財が展示された資料館。「群馬HANI-1グランプリ」で1位になった笑う埴輪も展示。周辺には七興山古墳、白石稲荷山古墳などがある。
 ●MAP C-1

に供給したことがわかっていません。こうして大量生産することにより技術が向上するとともに名工が生まれたと考えられます」。

ここで工人たちの技が光る必見の埴輪をいくつか紹介しよう。まずは群馬HANI-1(はにわん)グランプリで第1位に選ばれた「笑う埴輪」。若狭さんによるとほほ笑笑んでいるのではなく、不気味な笑顔で古墳に魔物が寄ってこないようにしているのだそう。「掛甲の武人(武人埴輪)」は単体としては唯一国宝に指定されている埴輪で、完全武装の東国武人の姿を表している。人物埴輪の中でも極めて優れた作品だ。観音山古墳から出土した国宝の女性埴輪「正座し祭具を捧げる巫女」は、その盛装の姿から当時の女性の社会的地位の高さをうかがわせる。祭祀において中心的な役割を果たす巫女の姿を表現していると考えられている。かみつけの里博物館に展示されている、3体で狩猟の場面を表現する「犬形埴輪」「猪形埴輪」「狩人埴輪」には、狩人の腰に猪の鎮魂を目的とした小さな猪が造形されているので、ぜひ見つけてみよう。

数ある埴輪から見るべきはこれ